



遠大勵志

第27回高校生フォトコンテスト

【3/15岩手日報記事より】

第27回高校生フォトコンテスト(県高文連後援)の課題で中原中也の詩の一節「今日も小雪の降りかかる」には、県内7校の49人から88点の応募があり、岩手日報社で審査した結果、5点の入選が決まった。

◎【2席】 「雪おしろい」伊藤瑠華(黒沢尻北1年)

(選評)



粉雪を掛け合い遊ぶ友人たち。ちょうど顔に雪がついて、おしろいのように

白くなった笑顔の瞬間を捉えた。雪は降っていないが、省略された背景と髪にかかった雪がかれんさを演出している。シャッター速度320分の1秒は雪が多少流れる絶妙の選択。

◎【3席】 「吐息」渡辺穂香(黒沢尻北2年)

(選評)

応援団員の声出し練習を背後から狙い、白い息と小雪を絡めた。硬派な蛮力ラが何を



「汚れた」と感じているのか、想像力をかき立てる。背景をぼかして被写体を強調するとともに、混沌とした世界観を演出した。焼き込んで背景を暗くしても良かった。

【2次審査通過作品】

◎「なんかこの家あったかそう」◎「覗いた先には BlueSky」

吉田悠馬(黒沢尻北1年)

半揚詩菜(黒沢尻北1年)



この高校生フォトコンテストでの上位作品は、

4月12日～21日の午前9時～午後6時、盛岡市大通の岩手教育会館に展示されるとのことです。写真部の活躍に、大きな元気をもらいます。今後の活躍に期待しています！！

※紙面での写真が見つからない場合には、本校HPでご覧下さい。

飛び出せ写真部

【3/15岩手日報記事より】

部員22人が活動する北上市の黒沢尻北高写真部。県高校文化連盟主催のほか、さまざまなコンテストで上位入賞を目指して活動している。部員を束ねるのは渡辺穂香部長(2年)。「みんなで写真を見せ合って切磋琢磨しながら活動している」と充実した活動を振り返る。学校行事を主に撮影する齊藤愛琉さん(2年)は「高校生のうちにしか撮れない行事や友達の写真を撮りたい」とファインダーをのぞく。

自身のカメラを持つ生徒もおり、軽石彩貴さん(2年)は「いつでも写真が撮れるように自分のカメラを買ったけれど、この頃は部員から頼まれて写真のモデルになることが多いかな」と照れ笑い。吉田悠馬さん(1年)はプロジェクションマッピングの技法を用いて同校の蛮力応援団を撮影。2018年の第24回高校生フォトコンテスト(岩手日報社主催)の1席に輝き、同校の今年度の生徒会誌の表紙も飾った。吉田さんは「雑誌やCMなどの広告を参考にして次のアイディアを練る」と創作意欲を燃やす。自身も生徒と共に作品作りに励む顧問の達下才子教諭は「まずは楽しく写真を撮ること。そしていい写真が撮れてないと思っても諦めないことを伝えている」と、生徒と共にシャッターチャンスを狙う。